

第 16 回肝炎医療コーディネーター

平成 30 年 1 月 25 日 ホルトホール大会議室

18 時 35 分開始

地域肝炎治療コーディネーターと 1 月 14 日に誕生した肝炎医療コーディネーターが合同で、研修会を開くことになりました。

まず、今日は酒井先生に別府医療センターの掘り起こしの現状と工夫をお話いただき、その後全員参加の討論を行っていききたい。

酒井先生は C 型肝炎治療の歴史と現状、それに最近肝炎医療コーディネーターの活動について話題提供された。この中で、地域の非専門医の医師との連携と院内を受診した 6500 名の HCV 抗体陽性者中で、未治療の 6 名を拾い上げ、治療されたとのこと。院外、院内の肝炎患者の掘り起こしを実践。

全体討議では、

地域中核病院。協力病院、専門病院型、一般クリニック型、検診型、行政・企業保健師型、透析病院型、拠点病院型のカテゴリーに分かれて、活発な討論を行った。

この結果、大分県では別府地区が先陣を切って、掘り起こしを行っている。

新別府病院型、別府医療センター型、鶴見病院型それぞれの病院の特徴を生かした活動ができている。さらに、豊後大野、宇佐、中津が続いており、

今後は拠点病院、大分県立病院、大分医療センターの奮起を促したい。

さらに行政保健師の出席がよくなく、県と保健所、大分市保健所などの活動の状況が把握できていないが、これは行政の活動の範囲と考えられる。

今回の収穫は、協会けんぽの方が出席しており、職域検診で、膠着状態ができそう。

寒い中、参加していただいたコーディネーターや手伝ってくれた MR の皆様、ありがとうございました。

文責 清家正隆